

静岡県漁業協同組合連合会
1110 静岡市追手町 9-18
16.9.17 054-254-6011
編集・発行 = 指導部漁政課

1. 第56回全国漁港漁場大会 盛大に開催される

第56回全国漁港漁場大会が、去る9月14日静岡市・グランシップにおいて全国から約2,500名の漁港漁場関係者が参加し盛会に開催されました。

大会は、寺田正捷県漁港漁場協会理事(福田町長)の開会の挨拶の後、主催者を代表して、坂井 淳全国漁港漁場協会会長が挨拶を行ない、続いて来賓の市川農林水産副大臣が祝辞を述べました。

この後、高木義明衆議院農林水産委員長、竹山 裕漁港漁場整備促進議員連盟会長、並びに中須勇雄大日本水産会会長、植村正治全国豊かな海づくり推進協議会会長(JF全漁連会長)が夫々祝辞を述べました。

続いて、石川嘉延県知事の歓迎の言葉の後、議事に入り議長に鈴木藤一郎県漁港漁場協会会長(伊東市長)を選出し、山本節子県JF女性連会長が「漁業漁村を立派にすることは、地球の環境を守ること」と、大会アピールを読み上げ、さらに澳本勝彦高知県漁港漁場協会副会長が、漁港漁場整備計画の一層の促進と17年度予算満額確保を盛り込んだ決議文を読み上げ、満場一致で採択されました。

この後、次回開催地である新東京一兵庫県漁港協会会長(東浦町長)の挨拶の後、山本県漁港漁場協会理事(初島漁協長)が閉会を宣言しました。

大会決議 豊かな海の森づくりとつくり育てる漁業、資源回復を支援する基盤づくりの推進 消費者の求める安全で安心な水産物の生産供給基盤の整備 都市と漁村の共生・対流の促進と美しい漁村づくりの推進 漁港漁村における地震津波防災対策の早急な強化

2. 県密漁防止対策協議会開催される アワビの密漁防止とブランド化

県密漁防止対策協議会では去る9月9日、委員・幹事会を開催し、平成15年度の事業報告及び収支決算並びに平成16年度の事業計画及び収支予算について審議し夫々承認されました。

本年度は、アワビの密漁防止対策を重点事項として掲げ、密漁されたアワビとの差別化とブランド化につなげることを目的として、南伊豆地域の特産品であるアワビを対象にトレサビリティシステム(生産履歴の追跡)の確立に着手します。

今回の取り組みは「エコラベル試験事業」として正規に漁獲したアワビに「エコラベル」(タグ)を取り付け、生産者から消費者までの経路が把握できるようにして、タグに表示した番号をインターネットで問合せると、漁獲場所や取扱漁協などの履歴情報が分かるシステムとなります。

南伊豆町漁協の協力を得て、試験的に約1万個のアワビにタグを取り付け、小売店、消費者などの反応を見極めるほか、密漁防止の効果を検証するとともに県産アワビを漁協認定の優良ブランドとして普及を目指します。

3. 「山口県漁協」に向け40JFが合併仮調印

- 資料提供JF全漁連 -

沿岸地区58JFによる県1漁協設立を目指す山口県で、去る9月10日に合併調印式がおこなわれました。台風被害の復旧で出席できなかったJFもありましたが、仮調印には40JFが参加し、合併の方式を新設合併と定め、2005年1月1日を合併予定日としました。今回不参加の18JFは、9月20日までに合併参加の意志を判断することとなりました。

式では、長岡哲雄合併推進協議会会長(JF山口漁連・信漁連会長)の挨拶に続き、来賓を代表して植村正治JF全漁連会長(宮原邦之専務代読)が「漁業・JFの再生に向けた皆さんの英断は、JF合併に取り組む全国の浜を勇気づける」と祝辞を述べました。

4. TAC対象魚種のABC検討

全国資源評価会議がこのほど開催され、TAC(漁獲可能量)対象魚種などの資源評価の結果や、来年度のTAC算定の根拠となるABC(生物学的許容漁獲量)を検討しました。

それによると、事前に、ABC上限値を「ゼロ」として実質的な禁漁が提言されていた対馬暖流系群のマイワシは、ゼロ提言が初めてだったこともあって、広く注目されていましたが、漁業者からは海洋環境などの要因もあるのに、漁獲を禁止するだけでは資源回復とはならないなどの意見が出されました。しかし、検討の結果、環境要因など以上に親魚と加入の関係が厳しい状態になっており、できるだけ漁獲しないほうがよいことは明らかとして、ABCはゼロとする表現をやめるとともに、「専獲をやめ」、これまで以上に「混獲も極力避ける」ことが盛り込まれました。

太平洋系群のマイワシでも、漁業者側から、資源管理と回復の関係の不確実性を主張する意見もありましたが、研究者側のデータや主張にも理解が進み、資源評価会議としてはABCを事前提案どおり25,000トンとしました。

マサバも太平洋系群(33,000トン)、対馬暖流系群(165,000トン)とも原案どおり承認されましたが、太平洋系群は水研が推定した2004年の加入量(10億尾)について、漁業者側は過小であると主張し、今後、推定値を大きく超えるようなデータが出てきた場合は期中改訂することとなりました。

5. イルカ追い込み漁水揚げ方針を決める

伊東市漁協では去る9月10日、伊東市富戸地区に伝わるイルカ追い込み漁期(9月~来年3月)が今月1日に始まったのを受け説明会を開催し、水族館から需要が見込まれるバンドウイルカを中心に、5年ぶりとなる水揚げを目指す方針を決めました。

今年は、昨年度の漁期前に決めたマニュアルを順守し、群れの発見と同時に追い込み船が出漁できる体勢を整え、漁船十数隻で漁港内に追い込みます。イルカの追い込み漁は江戸時代から続く漁で、今では伊東市富戸と和歌山県太地町の2ヵ所で行われています。水産庁から示された捕獲枠は以下のとおりです。 バンドウイルカ75頭 アラリイルカ455頭 スジイルカ70頭

6. 諸会議・日程(9月21日(火)~10月4日(月))

- 既報分省略 -

9月27日(月) 県信漁連 = 第7回理事会 (県水産会館)

9月28日(火) 県JF共済推進本部 = 推進専門委員会 (")

9月29日(水)~30日(木) 県漁連 = 平成16年度組合長会議・研修会 (伊豆長岡町)